厚生労働科学研究費補助金（第３次対がん総合戦略研究事業）

（分担）研究報告書

がんの診療データベースと Japanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用

研究分担者　宇野　隆　千葉大学大学院　教授

研究要旨
普遍的がん登録システム JNCDB を構築し、JNCDB の本格運用に向けた feasibility study（情報共有試験）を行い結果の解析を行った。日本食道学会と協力して食道がん固有の臨床情報を網羅した新たな全国登録データベースを構築・運用し、2005,2006 年全国登録結果の解析を行った。

A．研究目的

がん臨床の現場で有用性の高いアウトカム評価まで可能な普遍的がん登録システムである JNCDB を構築し、その本格運用に向けたシステム改良と feasibility study（情報共有試験）を行う。日本食道学会全国登録委員会と協力して集積された 2005,2006 年症例の情報を解析しアウトカム解析を行う。また、2007,2008 年症例の食道癌全国登録作業を行う。

B．研究方法

1．本研究班で開発された主要ながん腫（肺癌、食道癌、乳癌、子宮頸癌、前立腺癌）の JNCDB の feasibility study（情報共有試験）結果を基に本格運用に向けたシステム改良に関わった。

2．本研究班による患者個人情報に関するセキュリティシステム構築を土台に、2007,2008 年食道癌全国登録作業を開始した。2005,2006 年症例について集積データの解析を終了した。

（倫理面への配慮）想定される個人情報保護への対応として、JNCDB 個人情報保護規約の策定とその遵守の重要性を確認。

C．研究成果

1．feasibility study（情報共有試験）の結果を基に項目の重みづけを行うことで各疾患における JNCDB 入力データ項目の再構成を行った。

2．日本食道学会との協力で食道癌全国登録 2005,2006 年分が解析され、Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2005, 同 2006 として出版された。内視鏡的粘膜切除術、同時併用化学放射線療法、放射線治療単独、化学療法単独、外科切除による５年生存率等が示され、全国登録によるアウトカムデータが得られた。

D．考察

本年度に策定されたJNCDB各調査項目は、情報共有試験の結果quality measureとしての意義が評価され、アウトカムを含む疾患固有の情報を提供可能な普遍的なデータベースが構築された。本格的な運用に向けてのさらなる整備が予定されている。食道癌全国登録により集積されたデータを解析することで、アウトカム評価まで可能であることが示された。

E．結論

JNCDB 各調査項目は情報共有試験の結果、quality measure としての意義が評価された。食道癌登録システムでは、アウトカムデータを含む疾患固有の臨床情報を提供し得ることが確認された。

F．研究発表

１．論文発表

Ozawa S, Numasaki H, Uno T, et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2005 Esophagus 2014;11:1-20.
Tachimori Y, Ozawa S, Numasaki H, Uno T, et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2006 Esophagus 2014;11:21-47.

G．知的財産権の出願・登録状況

なし